



4年生・ふるさと村にて

緑の風



学校教育目標「夢に向かって 心豊かに たくましく生きる子ども」
～“自分で考え みんなと創る” 楽しい ふるさとの学校～

4～6年生が秋田県学習状況調査に挑戦

秋田県の4年生以上の小・中学生がみんな挑戦する学習状況調査が本日行われました。この調査は、5・6年生は、国語・算数・理科・社会の4教科。4年生は、国語・算数・理科の3教科のテスト。そして、勉強の好き嫌いや取り組み方に関するアンケート調査のような質問紙調査もあります。

本校では、「自分で考える みんなと創るプラン」を担当する、藤原先生（研究主任）と和彦先生、板垣先生の3人による『チーム藤原』が中心となって、学力向上を目指してきました。授業とステップアップタイムの計画的な実践や資料の準備や提供などに一生懸命に取り組んでくれました。そして、子どもたちも“まじめ”にがんばってきました。

さて、年に一度の、この大調査からは、大まかに言うと次の五つの点が見えてきます。

- ①どの部分が分かっている、どこが分からないのかが見えてきます。
- ②県全体と比較して、どれくらいのレベルにあるのかが分かります。
- ③学級のばらつき具合（個々の分布）が分かります。
- ④4年生から毎年テストするので、中学校3年生までの経年比較もできます。
- ⑤子どもたちの、授業や将来の夢への向き合い方の傾向がつかめます。

大事なことは、この調査の日までに、どんな授業をしてきたか！ということなのです。これまでの毎日の営みが問われる調査だと考えています。

そして、結果が届いたら、先生方みんなが弱点をフォローして、子どもたちがしっかりと安心して進級できるように、授業を中心として改善を図っていくことになります。

横堀小学校としては、この調査は結果の競争じゃなく、「これまで」と「これから」をつなぐ調査であると位置付けています。去年は、算数が全体的に全県よりも低調で、他はほぼ全県平均並みの成績でした。

また、この調査は、よく勉強の全県大会とも例えられてもいます。マイティーンノースは、全県優勝を果たしましたが・・・家庭学習もぐんぐんパワーアップしてがんばっている子どもたち。結果は、2月にお知らせします。お楽しみに！



「高1読解力、15位に低下」 12/4 秋田さきがけ 1面見出し

国際的な学力テストである、学習到達度調査（PISA）の2018年度の結果では、「読解力」「科学」「数学」の全てで順位を下げて話題になっています。

中でも、「読解力」では、根拠を示して考えを述べることや、雑誌とネット情報と文章とを比較し、情報を見極めて自分の考えを表現することに課題がありました。

ゆとり教育後のこの低下に対しては、学校教育に内容を詰め込みすぎているとの見解もあるようです。実際、時間はビッチビチ、どの学校も人手不足なのです。

その日本の秋田県、その中の横堀にいて、私たちに「できること」を焦点化するためにも、「ふるさと」のカリキュラムを創ることや、「自分で考える」「みんなと創る」授業改善に力を注いでいきます。

それにプラスして、「家庭の家庭学習」パワーを加えることで、2030年頃の一人一人の夢を実現するための“横堀の学び”を一緒に創造していきましょう。

給食集会

最近、集会が充実しています。「台本を見ないで！」とか「読まずに話言葉で伝える」ことにチャレンジしているので司会やあいさつの声がだんだん大きくなってきました。顔を上げて話すこともできるようになってきて喜んでいきます。公の場(みんなの前)で自分を表現する力、鍛えています。



11月28日(木)の昼の時間、給食委員会の子どもたちが主催する給食集会が開かれました。アンケート結果、「食べ物ワクワククイズ」など、様々な内容で給食のことやバランスよく食べることの大切さ等を考えさせてくれました。給食アンケートでは、給食が好きな人が91人、ふつう？の人が21人で、嫌いな人はゼロでした。いろいろな学校で給食を食べてきた横堀小学校の先生方にアンケートしたら、まちがいなく100%大好きと答えるはずで、各学年の人気NO.1のメニューが順番に出されることになり、大喜びでした。

なすの中身の色や、乳牛の生産地などに関するクイズでは、低学年は信頼する気味で、高学年の手の挙げ具合を参考に？しながらも、正解に興奮気味でした。そして、集会の中では、毎週の始まりの日に、いつも二人で全校の給食台ふきんをたたんでくれている、4年生の信田芽衣さんと1年生の齊藤紅愛さんに感謝状が手渡されました。がんばりをほめられる二人は、いつも以上に輝く満面の笑顔でした。「みんなと創る学校」の一員として、大切なお仕事を、これからもがんばってくださることと思います。今週からの、バランスよく食べて食品ロスを減らす「炎のぱくぱく週間」も楽しみです。



3年生 しょうゆもの知り博士の出前授業



栄養教諭の長澤香先生の企画で、日本醤油協会の「しょうゆもの知り博士」である田村博士をお招きして、9人の3年生が「香りの体験」「麹菌の観察」「もろみの味見」などの体験学習をしました。原料の大豆や小麦、そして、醤油に加工、熟成されていく様子などを詳しく観察する中で、みんなが毎日食べているものの中にある、たくさんの「？」を解決できました。きつと、夕食のときから「豆博士」たちが知識と体験をたくさん披露したことと思います。

学校報の私的利用？ をお許してください

“子育て感謝状” 10452日

私事ですが、先週の土曜日、娘の結婚式がありました。写真のチャペル入場から始まって、ラストの両親への感謝のシーン。そこで、生まれたときと同じ体重のクマのぬいぐるみを女房がもらい、私には「子育て感謝状」をくれました。

「10452日」。改めて、その日々の思い出がよみがえりました。もちろん、生まれた日のことは克明に覚えています。そして、乳幼児期にめんこがったことも。

それでも、娘の歴史を大きく変えたのは、まちがいなく小学校時代でした。我が家は、部活第一で子育てしたので、特にスポ少は家族ぐるみで大切にしました。一緒に泣いて、喜んで...

そして、一緒に住んでいたのは18才まで。つまり、家を離れてから10年になります。皆さんのご家庭でも、18才で家を離れる子どもも多いのではないのでしょうか。

6年生は、これまでが約4400日、18才までが約2200日ですよ。

さて、この「子育て感謝状」に面白くないことがあったので、家に着いてからすぐに、いたずら書きをしました。「10452日」の次に、思いっきりでかく「〜」を入れました。

子どもの結婚で子育ては終わりかもしれないけど、娘を見守り応援していくことに、終わりなどあるはずがありませんから！

こういう日、すぐに来ますよ！

